

はじめに

この報告書は、平成元—2年度文部省科学研究費補助金・一般研究(A)による「現代12イマーム・シーア派の思想・制度の総合的研究——原典研究を中心として——」の研究成果の一部である。

本書はイスラーム革命後のイランの政治制度を研究するうえで、考慮にいれておかなければならないイスラームにおける“指導権”および“監督権”に関する論説を見るために、“指導権”に関する古典的作品と“監督権”に関する現代の作品を取り上げて翻訳してみた。“指導権”(イマーマト)、“監督権”(ウィラーヤト)についての知識はイスラームの政治理論とりわけ権力論の特質を知るうえでかくことのできないものである。権力のありかたについてのムスリムの思想家からのメッセージを読み解かなければイスラーム世界の政治のダイナミズムを理解することができないことはいうまでもない。そういう意味でこの報告書にまとめられた3つの論文は重要な意義をもつものと信じる。

1979年のイラン・イスラーム革命によりイラン・イスラーム革命政府が樹立され、“法学者の監督権”(wilāyāh al-faqih, wilāyat-e faqih)という理念のもとにイスラーム国家建設が始められた。これはイスラーム法の精神に基づくイスラーム共和国憲法を新たに制定し、その枠組に沿って国家を運営していこうというものであるが、国家経営がイスラーム法に合致しているかどうか、あるいはイスラームの精神に照らして正しいか否かを学識豊かなイスラーム法学者が常に監督するという制度をもつ政体である。このような政体をいかに定義すべきか、いかなる政体のジャンルに入れるべきかをめぐって様々な議論が戦わされてきた。とりわけ最高指導者(マルジャエ・タクリード)の性格と役割をめぐる論者間で意見がわかれている。ある人はこれを神権政治と呼び、ある人は法学者の専制政治とみなし、ある人は一種の

独裁政治であると主張した。しかしながら、これらの政治学上のコンセプトは西欧の政治学において発達したものであり、それらがそのまま西欧にとり異文化であるイスラーム世界の政治に当てはまるとは思えない。イスラームはセザロパピズムとかヒエロクラシーという意味でいう神権政治とは基本的に相入れない。イスラームはまた独裁とか専制ということを極度に嫌う。したがって、神権政治とか専制政治というコンセプトでイラン・イスラーム政体を単純化し規定してしまうことには大いに問題がある。むしろイラン・イスラーム政体の理論的基盤を詳しく研究し、政治的現実との拘わりをよく見極めたいのでその本質を云々すべきである。

イスラーム政体論の中心をしめる“法学者の監督権”の思想は、存在論的根拠をもっている。もともとこの思想は、クルアーンやハディースに直接根拠をもつものではない。それゆえになおさらのこと、その根拠づけのために存在論と宇宙生成論が援用されることになったのであると思われる。この思想は哲学的位置づけをなされた後に、クルアーンやハディースに根拠を求めるものとなっている。すなわちクルアーンやハディースの哲学的解釈が、必要な理論なのである。それだけに一層、この理論はクルアーンやハディースの一義的表層的解釈にこだわる学派の人々には、受け入れ難いものとなっていることは事実である。しかしながらこの思想は、言葉の意味が現象の多義性と重層性に対応して、多義的で重層的であるという事実と根差して立てられている。それゆえに一層の説得力をもつ。この研究成果報告書においては、日本においてまだよく知られていない“法学者の監督権”の思想のもつ論理の構造を知るために、これに関する資料を幾つか訳出し、『12イマーム・シーア派の権力理論』と題して一巻にまとめた。

第1の論文は西暦1794年に没した12イマーム・シーア派の著名な神学者ムハンマド・マフディー・ナラーキーの著書 *Anis al-Muwahhidin* 『一神論者の朋友』のなかの *Imamat* (ムスリム共同体の指導権) についての議論の部分を訳出した。訳にあたっては、イラン暦1363年ハサン・ハサンザーデ・アー

モリー校訂、Inteshārāi al-Zahrā 社出版のテキストを使用した。この翻訳は、今回のプロジェクトのメンバーである岩井秀子が専ら当たった。第2の論文は、現代イランの代表的な神学者でありコムQomの神学院の教授であるジャーディー・アーモリーの“法学者の監督権”についての論文である。テキストはイラン暦1363年 Daftre Inteshārāte Islāmī 出版の *Majmū‘eye sokhanrānīhāye peyrāmūne Welāyate Faqih* に収録された第一講演である。この講演論文の翻訳は、松本耿郎がおこなった。第3の論文は、現在テヘラン大学神学部の教授であるアブ・ル・カーセム・ゴルジーの論文である。テキストはイラン暦1363年 Sāzmāne Tablighāte Islāmī 出版の *Maqālāte Nokhostin Konferānse And isheye Islāmī* に収録されたものを用いた。この論文の翻訳は、松本耿郎がおこなった。

松本 耿郎

1991. 2. 1